

答 辞

冬の寒さが残りつつも、桜の木の枝には小さな赤い芽がつき、春の準備を始める季節となりました。本日は私たちのためにこのように盛大な式を挙げてくださり、誠にありがとうございます。この御時世、御来賓の方々、保護者の皆様、そして在校生の皆さんに参加いただき、無事卒業式を迎えることができましたことを、卒業生一同非常に嬉しく思います。

思い起こせば3年前、私たちは新しい生活に胸を踊らせながら、仁賀保高校に入学しました。

1年生で印象に残っているのは、文化祭と同日に開催されたマルシェ型イベント「いちじくいち」への参加です。その年の文化祭は「にかほっと」での初開催で、私たちは初めての文化祭をかなり楽しみにしていました。「なんで、自分たちの学年はいちじくいちなんだ」と、文句たらたら、不満たらたらの状態で参加したことも今となってはいい思い出、忙しく立ち働いたことも、貴重な体験だったと思えます。

入学からの1年間はあっという間で、そんなにも時の流れが早かったのは、多くの学びと新しい経験が詰まっていた証だと思います。

そして2年生になる直前から、新型コロナウイルスの世界的流行によって、1ヶ月以上も休校することになりました。今後の学校生活への不安も抱えながらの自宅待機でした。休校が終わってからもコロナは蔓延し続け、マスクの着用・手の消毒・黙食など日常は大きく変わりました。

高校生活最大の行事とも言える修学旅行中止には、このまま自分たちの高校生活はコロナウイルスに抑えつけられたまま終わってしまうんだろうなという思いがわき上がり、無力感を味わいました。誰も悪くないことがわかっていること、だからこそ、こみ上げる苛立ちや日々のストレスはどこにも出口がなく、更に大きいものになりました。私たちは、その苛立ちをぐっところえ、学校生活を送っていたと思います。

3年生になると、一人ひとりに Chromebook が配布され、生徒総会や球技大会といった学校行事にもオンラインや配信のシステムが導入されました。しかし、新しいことに挑戦することの過酷さは想像以上で、特に文化祭は、私たち生徒の理想と三密回避を両立させる企画運営は非常に難しく、夏から企画立案と報告を何度も繰り返しました。やはり、私たち生徒の理想通りとはいかなかったものの、「コロナ禍でも出来る限りのことをしてやる」という強い気持ちで仁高祭開催に向けて取り組み、成功を収めることができました。

進路活動に際しては、各々の進路実現に向けて、真剣に準備に取り組みました。上手くいかないことも沢山ありましたが、心が折れぬよう互いに支え合い、互いを奮い立たせ、乗り越えることができました。

私たちがこのように成長することが出来たのは、私たち生徒一人ひとりと向き合い丁寧にご指導して下さった先生方のおかげです。どうしても素直になれず、反発してしまうこともあった、そんな私たちが、今日卒業を迎えることができました。心から感謝申し上げます。

さて、卒業するにあたり、在校生の皆さんに伝えたいことがあります。それは、自ら考え行動することを大切にしたいということです。

私は、生徒会活動などを通し、学校という枠組みの中で理想を実現させることの難しさを何度も経験してきました。しかし、それでもなお、後輩の皆さんには、自分の考え、意見、要望、発想を活かすチャンスを逃さず、どんどん行動に移し、仁賀保高校をさらに魅力のある学校にしていってほしいです。皆さんにはその力が充分にあると思います。卒業生一同心から応援しております

そして保護者の皆様、私たちは常に家族に支えられてここまで成長することが出来ました。日々のお弁当や送迎など、いつも一番近くで私たちを支えてくれました。感謝してもしきれません。私たちは、これから一步一步自立出来るよう頑張ります。どうかその姿を見守っていてください。18年間、本当にありがとうございました。

卒業生の皆さん、いよいよ卒業の時がきました。ありきたりな表現ですが、長いような短いような、3年間の青春という輝かしい時間が、今日この日をもって終わります。

私たちは、一人ひとり、ここに言い表せないほどたくさんのことを経験し、迷い、悩み、考え、机の上の勉強だけではない、たくさんのことを学びました。

もしかすると、今日「さよなら」と言って校門で手を振った相手ともう二度と会うことはない、そんな相手ももしかしたらいるかも知れません。

何かと我慢と苦勞が多い高校生活でした。しかし、3年間、本当によく頑張りました。

そして今、これまでとは比べものにならないほどに大きな社会に身を投じ、おのこの別々の道へ歩みを進めます。沢山の困難や壁に当たることがあると思いますが、経験を活かし、何があっても挫けずに、勝ち気で、胸を張って、堂々と自分の道を歩んで行きましょう。

最後となりましたが、この3年間でお世話になった多くの方々に改めて感謝を申し上げますと共に、仁賀保高校の更なる発展と皆様の御健康を心からお祈りし、答辞といたします。

令和4年3月1日

第43期卒業生代表 木内芽空